油流出事故の防止対策と油流出事故発生時の初動対応について

1　油流出事故の事例

燃油タンクから農業用ボイラーまでの配管や継ぎ目付近、水抜き弁等の劣化や破損、未使用時期の開閉弁の閉め忘れによるものが多くなっている。また、関係機関への通報が遅れたことで、被害が拡大した事例も見られる。

2　油流出防止対策

（１）**農業用ボイラー、燃油タンク、防油堤など**、所管の消防署の指導に基づき**適切に設置**する。（設備の設置基準は、お住いの市町村等の火災防止条例により規定されています）

（２）**日頃から定期的に燃油タンクや配管を点検**し、破損や劣化等が見られた場合は**直ちに修理**する。

（３）河川等の増水や強風、地震等により燃油タンクが倒れないように**タンクを固定**する。

（４）防油堤に溜まった雨水は抜いておく。その後、タンクから流出した油が防油堤から外へ流出しないよう、止水栓を閉めておく。

（５）長期間使用しない場合、流出防止の観点から燃料を使い切り※、元栓を閉める。タンク内に燃料が残っている場合でも元栓は必ず閉める。その際は、必ずボイラーのエア抜きコックを開ける（配管内の油温の上昇・膨張により配管を破損する恐れがあるため）。

※加温機メーカーでは長期間使用しない場合は、栽培シーズンの終了時にＡ重油を使い切ることを取扱説明書に明記しています

（６）万が一に備えて、各種保険への加入を検討する。

油の流出は、環境に大きな影響を与えるとともに、排水路、河川、圃場等に流出した油の回収費用は原因者の負担となるなど、農業者にとっても大きな負担となるため、十分注意する。

3　油流出発生時の初動対応

（１）流出を発見したら直ちに、所管の消防署に連絡する。

（２）併せて、発生要因（閉め忘れなど）を確認して、すぐに流出を止められる場合は直ちに対応する。

（３）排水路、河川、圃場等に流出した場合、周辺の地下水や生活環境への影響を未然に防止するために、流出した油を早急に回収・除去する必要がある。流出した場合の事後対策は、油の種類と流出量、圃場の状態等により対応が異なるため、関係機関の指示に従う。

【圃場（土壌）に流出した場合の対応】

汚染された土壌を除去するのがもっとも確実な方法である。汚染の拡散を最小限

にするために、ただちに油で汚染された土壌をビニールシート等の上に掘り上げ、さらに上部を覆うなど、可能な限り飛散・流出防止に努める。対応が遅れると時間の経過とともに汚染が拡散し、処理に係る時間と費用が増大するため迅速に行うこと。